

市長	副市長	部長	課長等	リーダー	担当	供覧	報告者
第1回養父市振興計画審議会会議録							
期 日	平成22年1月18日(月) 午後1時30分～4時25分						
場 所	養父市立八鹿公民館2階展示室						
出席並びに 欠席委員 出席23名 欠席2名 凡例 ○：出席 ×：欠席	委員氏名		出欠等	委員氏名		出欠等	
	会 長	荒田幹夫	○	委 員	仮屋美子	○	
	副会長	大林賢一	○	委 員	宇都良栄子	○	
	副会長	正垣道子	○	委 員	梅井逸郎	○	
	委 員	池田和揮	○	委 員	村上隆司	○	
	委 員	山下邦子	○	委 員	田渕久和	○	
	委 員	雑賀 学	×	委 員	吉田明博	○	
	委 員	圓山 光	○	委 員	米田一之	○	
	委 員	松岡 勇	○	委 員	池田ビルギット	×	
	委 員	田中今子	○	職員委員	満田理恵	○	
	委 員	田村 譲	○	職員委員	奥藤 啓	○	
	委 員	山根美智子	○	職員委員	井平 聡	○	
	委 員	小松原貴美子	○	職員委員	塚本 竜	○	
	委 員	藤原光子	○				
アドバイザー	松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役						○
事務局	政策監理部長	児島一裕	×	企画政策課主査	田村光司	○	
	企画政策課長	阿部 稔	○	企画政策課主査	岡 和昭	×	
	企画政策課副主幹	藤野英希	○	企画政策課主査	安達洋道	×	
<p>1 開会</p> <p>2 委員の委嘱 委員自己紹介の時間を確保するため、机上配布していることを説明</p> <p>3 市長あいさつ 今年、この不景気風を吹っ飛ばし、より充実した躍動感のあふれる元気、活力に満ちた養父市づくりに向けて、より具体的に進んでいきたいと考えている。地域経済の活力をどのように得ていくか、人口を増やしたいということで若者定住、子育て支援、子どもを生み、育てやすいまちづくり。この2つを大きな柱として平成22年度は取り組んでいきたい。 みなさまには、養父市振興計画審議会委員をお願いしたところご快諾いただきありがとうございます。平成17年度に振興計画を定めた。10年計画で、今年で5年目となる。前期計画を終了し、見直しをして後期計画に入っていくということで、みなさまには基本計画の部分の見直しをお願いすることになるのではないかと考えている。 基本構想、基本計画、実施計画の3つから成り立っており、基本構想は大きく変わるものではないと考えている。いずれにしても、今後5年間の養父市の方向付けをしていただくための振興計画であるので、十分、ご審議いただき、よい計画をつくっていただきたいと考えている。よろしくお願ひしたい。</p>							

4 委員自己紹介

前職・現職等を踏まえ、計画策定への思いを交えて、2分程度で自己紹介

5 会長・副会長選出

選出について、いかが取りはからうかを諮ったところ、「事務局一任」の声があり、事務局から会長に荒田幹夫委員を、副会長に大林賢一委員、正垣道子委員ということをご提案したところ、拍手で承認された。

6 会長あいさつ

会の運営にあたりましては、委員全員がリーダーであり、主体者であるという気概でご協力、ご支援をいただきたいと思いますのでよろしくお願いしたい。

養父市は人口減少や過疎化が進んでおり、年々地盤沈下を余儀なくされている。この先にも歯止めが見えない。正直申し上げて、希望のもてるまち姿を描くことは至難なことであるが、反面、こういう時代こそ、これまで行ってきた政策や行政と市民の役割分担などを抜本から見直してみる。また、これまで養父市の負の遺産と思われるものなどを再認識して、資産として生かすことができないかと逆転の発想をしてみたり、現状の政策にこだわることなく、養父市の課題を解決し、養父市をよくするためには、どのような政策を優先すべきなのかをタブー無しで、新たな発想もしてほしい。なんとしても、明るさの見える養父市をつくっていきたくと考えている。委員のみなさんには、養父市の現状をしっかりとご認識いただき、財政は貧しくとも、養父市に住むことに誇りの持てる、元気で明るいまち姿の未来をどのように描き、実現していくかを積極的にご議論いただきながら、手作りの総合計画をつくっていかれたらと考えている。

7 養父市総合計画について（諮問）

荒田会長に対して、広瀬市長が諮問書を読み上げ、諮問した。

8 議題等

(1) 養父市の現状について（阿部課長説明）

年	人口	高齢化率
現在	27,846人	31.83%
5年後	24,586人	35.8%
10年後	22,687人	38.8%
15年後（2025年）	20,825人	41.2%

現在小学4年生は228人で、出生状況は170人。集落数153区のうち、8区が65歳以上が50%以上、20区が、55歳以上が50%以上となっている。

地域の状況としても、消防団員の確保、行政区の機能維持、日役や賦銭などの税外負担、農地・山林の維持ができない。有害鳥獣、ヤマビルが増加、冠婚葬祭ができなくなる。

職員は、465人いたが、毎年20人程度減り、396人となる。平成27年は350人を切るかもしれない、市の組織体制も変えなければならない。市と市民との対等の協働が必要。

市の公債残高は、19年度は62,156百万円、20年度は58,902百万円である。これは、阪神間と同様の行政サービスを維持するために必要な事業を行った結果である。

合併後10年経過すると、交付税が一本算定となり、14億円が5年かけて減額される。

(2) 養父市総合計画改訂企画案について

別紙「養父市総合計画改訂企画案」に基づいて説明

(3) 今後の進め方について

松原アドバイザーが説明

まずは、お互い意見交換し、養父市の現状を把握。将来像づくり。今と比べてどうするのか、どうしなければならないか（優先順位、重点項目）27年度までにどこまで到達するか。施策の体系、体制づくり。また、将来像を市民、職員に伝えなければならない、イメージ戦略についても検討していただきたい。

(4) 質疑応答

（質問）パブリックコメントとは何か

（答）まとめたものをホームページに掲載したり、本庁、地域局に置き、市民に実際に見てもらい意見を寄せていただく。寄せられた意見について、説明したり、意見に基づいて訂正したりする。なお、意見につ

いては個別には回答しない。

(意見) 1月から3月は忙しい。早めに会議の日程を知らせてほしい。

(答) アドバイザーの松原さんは神戸から来られるので、日程を調整し、早めに知らせる。

(意見) 養父市の現状は、資料にして配布してほしい。

(答) 次回には用意する。

(意見) ホームページに掲載して周知してもどこまで効果があるのか。

(答) ホームページは1つの方法であり、より多くの人に知らせる方法を考える。

(質問) 計画案等は示されるのか。

(答) 示さない。考えるのはみなさんである。

(質問) 現総合計画の達成度、効果を示してほしい。

(答) 行政大綱は検証中で、今は示せない。

(答) 現総合計画には、目標設定ができていないので検証できない。このため、今回は、10年度後どうするかという計画とする。

(意見) 現状の把握がしっかりしないと将来像が分からない。

(答) 福祉等、統計数値は出していきたい。

(答) 多様な人が、多様な関わり方をもっている。それをまとめることが大切である。数値にこだわらず、経験に基づいた意見を出してほしい。

(意見) 委員の出身地域、前職、現職を教えてもらえないか。

(意見) それらは知らずに話した方が、謎めいていい。また、必要に応じて聞けばいい。

(答) ワークショップのプログラムの中で、そういうことも考えたい。

9 次回開催予定日について

日時／1月29日(金)午後1時30分

場所／八鹿公民館展示室

2月・3月の開催日／第2・第4火曜日を基本とする。

2月9日(火)、2月23日(火)、3月9日(火)、3月23日(火)

会場については、1月29日の通知にあわせてお知らせする。

10 閉会